







元気なまちづくりのヒントになる まちづくり活動事例紹介

| | |
|---|----|
| 多様な世代が集まって住む‘ほどほど横丁’ | 1 |
| 地元住民による自発的・主体的なまちづくり 「下街道・坂下まちおこしを進める会」 | 2 |
| 河川改修を契機にNPO法人が主体となった蔵資源の利活用 | 3 |
| 堤防道路整備に伴う、自治会主体の堤防沿いの花壇整備 | 4 |
| 元気な高齢者が運営する街なかの居場所「喫茶カウンター付き宅老所『じい&ばあ』」 | 5 |
| 空き店舗を活用した0・1・2・歳とおとなの広場「遊モア」 | 6 |
| 人と人の縁が輪でつながる居場所づくりをめざして 「まちの縁側MOMO」 | 7 |
| 学生パワーでまちの活性化「名古屋学院大学まちづくりNPO人コミュ倶楽部」と「マイルポスト」 | 8 |
| TMOによる重要文化財のカフェとしての再生 | 9 |
| 半田山車祭りにおけるコミュニティのしくみと新たな街なかの資源を活用するネットワークの形成の動き | 10 |
| 旧街道の賑わいづくり 「中馬のおひなさん、塩の道おたから展」 | 11 |
| 散策と住むための街づくりを目指す 「川原町まちづくり会」 | 12 |
| 旧街道の賑わいを仕掛ける「中山道若衆会」 | 13 |
| ユニークなネーミングでまちおこしに挑む 「富士宮やきそば学会」 | 14 |
| 岐阜の市街電車の保存にかける「岐阜未来研究団」 | 15 |


| | | |
|----------|--|---------|
| | 多様な世代が集まって住む‘ほどほど横丁’ | 愛知県長久手町 |
| キーワード | 高齢化社会、多様な家族の混在 | |
| ほどほど横丁とは | <p>「ぼちぼち長屋」とよばれるアパートは、木造2階瓦ぶき、板張りの壁の建物三棟が東西に並ぶ。1階に介護が必要なお年寄り13人、2階の5部屋には4人家族と若い女性4人が暮らしている。向かいのデイサービスセンターを含めて「ほどほど横丁」と呼ばれる。昔の活気ある大家族を目指して、たいようの杜が運営している。</p> | |
| 生活の様子 | <p>六畳一間がお年寄りの部屋で、玄関は1つ。トイレや風呂などは共同で使う。自室に住む形を取り、介護保険の訪問介護サービスを利用して、入浴や食事の介助を受ける。入居者は「食堂で話していたり、個室で過ごしたり。気楽なところが良いです」「他の施設より自由に過ごせるのではないのでしょうか」「木の建物は温かみがありますね」と口をそろえて居心地が良さそうである。</p> <p>また、休日には2階に住む女性も食堂前の縁側で読書したり、お年寄りと話をしたりし、管理人役の職員が家族で住み、小学生の娘たちがお年寄りの部屋を訪れて遊ぶ。これらは他の老人施設では実現しない光景であり、「子どもの声も聞こえて、気分がゆったりする」とお年寄りは満足げだ。</p> <p>たいようの杜理事長の吉田一平氏は「当然、いろいろともめごとは起きるけれど、小さい単位であるから、解決できる。何事もほどほどにできる規模がいいのでしょうか。」と考える。</p> <p>このような世代を超えた集住の形態は、今後の高齢社会、核家族社会のなかで、一つの方向性を示すものであろう。</p> | |
| 写真・絵 | <p>ほどほど横丁</p>    <p>ほどほど横丁のイメージ</p> | |

| | 地元住民による自発的・主体的なまちづくり 「下街道・坂下まちおこしを進める会」 | 春日井市坂下地区 |
|--|---|----------|
| キーワード | 下街道、商店街の衰退、地元住民の自発性・主体性、町の歴史文化の再発見・再構築 | |
| 地区の概況と活動の背景 | <p>坂下は、江戸時代には、東海道と中山道を結ぶ脇道「下街道」の宿場町として賑わい、明治から昭和の初めにかけては養蚕のまちとして栄え、また、戦後は近隣在郷からの集客力がある商店街として栄えた。しかし、モータリゼーションの進展等により、商店街は徐々に衰退。また、それに伴って、下街道の街並みを始めとしたふるさと坂下の歴史・文化や伝統も忘れ去られようとしていた。</p> <p>このような状況を憂う住民が集まり、「伝統文化が息づいているまちの特性をいかして、地域みんなの手作りで、まちの活性化のためのまちおこしを考えよう!」と、平成 11 年の 12 月に「坂下まちおこしを考える会」を結成した。そして、総勢 50 人が 6 つの班に分かれてタウンウォッチングを坂下で実施。坂下の魅力を再確認し、まちおこし方策について討議を行った。このタウンウォッチングでまちおこしの気運が盛り上がるや、「いつまでも考えてばかりいられない」と、平成 12 年 3 月には、「坂下のまちおこしを進める会(会員 62 名)」として正式に会を発足した。</p> | |
| 活動等の概要 | <p>まちの賑わいを取り戻して、次世代の子どもたちにまちの歴史や文化を伝えることなどを目的に、空き店舗を活用したまちおこし拠点「坂下の宿」を開設するとともに、「遊歩道部会」、「民踊部会」、「寺子屋部会」、「養蚕部会」、「おかみさんの会」の 5 つの部会に分かれて「散策マップづくり」、「寺子屋」など様々なまちおこし活動を展開している。</p> <p>「遊歩道部会」...高札風の案内板の設置、坂下史跡を巡る散策マップ作成など 「民踊部会」.....新民踊「わがまち坂下」の作成、祭りを通じた新民踊の普及など 「寺子屋部会」...その昔、寺子屋を開講していた萬壽寺で寺子屋を復元。「坂下平成寺子屋」と称して、地域のお年寄りや大人が先生となって、手作りのテキストにより地域の歴史を子どもたちに伝承している。また、座学ばかりでなく、「縄ない」や「竹細工」等の体験学習やパードウォッチング等の環境学習、ゲートボールを通じた多世代交流なども行っている。</p> <p>「養蚕部会」.....養蚕が盛んであった坂下の生活文化を復活するために、地域の畑に桑の木を植え、蚕を飼い、昔の道具を使って糸紡ぎを行っている。</p> <p>「おかみさんの会」...各種行事にボランティアで協力する他、まちおこしの会のメンバーである和菓子屋さんを講師に招き、「坂下の宿」を会場にして、毎月季節ごとのお菓子づくり教室を開催している。お年寄りを始め、地域の様々な人が「坂下の宿」を気楽に利用してもらうため、茶菓子による接待サービスを考えている。</p> <p>「都市景観部会」.....こども広場の北側が国道 19 号の土留めコンクリート壁となっていて閉塞感があったことから、明るく楽しい場所とするため「花のかけはし」と題する大壁画を描いたことなどが評価され、春日井市都市景観市民団体第 1 号に認定された。</p> | |
| 活動による効果 | <p>平成 13 年度には、会のメンバーである坂下商店街振興組合を通じて、県の商店街競争力強化支援補助事業を受け、「下街道坂下まちおこし基本構想“レッツ坂下!”」(チャレンジプラン 10) を策定し、まちおこし活動のパワーアップを図っている。</p> <p>まちの賑わい再生への道のりは厳しいが、地元住民の内発力によるまちづくりを継続的に展開しており、まちの誇りや愛着の醸成に結びつきつつある。</p> | |
| <p>「寺子屋」の様子</p> <p>100 名以上が参加したまち探検WS</p> <p>まちおこし構想を練り上げる委員会もWSで実施</p> | | |
|  | | |

| | | |
|---------|---|----------|
| | 河川改修を契機にNPO法人が主体となった蔵資源の利活用 | 三重県伊勢市河崎 |
| キーワード | 河川改修計画、市民参加型都市マスタープラン策定、協働による歴史文化交流拠点計画まちづくりNPO法人設立、新たな商業集積 | |
| 地区の状況 | <p>伊勢市河崎は、かつて勢田川の水運で栄えた問屋街であったが、昭和 49 年に伊勢市を襲った七夕水害により勢田川改修計画が持ち上がり、河崎の町並みの特徴であった、兩岸に連なる家や蔵、基礎の石垣、船着き場といった美しい景観が失われていった。</p> <p>この間、河川改修計画に対する地元市民の異議申立から、河崎の町並みの再発見と保存運動が展開されていくが、当初は河川改修計画を推進する行政と保存運動を主張する市民団体が対立する構図の中にあった。</p> | |
| 活動の展開 | <p>市民参加型で策定された都市マスタープランで河崎地区が市の歴史文化交流拠点に位置づけられたことがきっかけとなり、市民と行政の「対立」の構図は「協働」の構図へと転換する。</p> <p>市民が「発意」した、伊勢河崎商人館の建築設計にあたっては河崎まちなみ拠点整備計画策定委員会を開催し官民協働で取り組んできた。さらに、その運営管理の受け皿として市民の活動団体がこれまでの関連団体を集結する形で「NPO法人伊勢河崎まちづくり衆」を設立し伊勢市から事業を受託している。市が施設整備を担い、施設の管理運営は新たに組織された市民団体が担っている。</p> | |
| 活動による効果 | <p>新たなまちづくりのスタートにあたって、河崎のまちづくりを考える複数の団体を包括するかたちで「NPO法人伊勢河崎まちづくり衆」が組織化され、新たなまちづくりの推進役を任されることとなった。</p> <p>地元の各種団体で構成される「河崎まちづくり協議会」も設立され、平成 15 年 7 月にはこの組織が中心となって計画を進めた日本で初めての「川の駅」が誕生した。このように、地域住民がまちづくりについて意見交換し、意思決定・実践活動を進めていく体制が整備された。</p> <p>町並み保存の機運の高まりとともに、旧家の町屋や蔵を活かした喫茶、居酒屋、食堂、美容院などが次々と開館している。かつての問屋街には古いのれんを守る老舗問屋が多く残っており、素材には事欠かない。まだまだその蓄積は少ないが、町屋や蔵を活用して経営される新しい店舗は、まちづくりに新しい活力・活気を吹き込もうとしている。</p> | |
| 写真 | <p>整備前後の勢田川の河川沿い</p>  <p>まちづくり構想</p>  <p>伊勢河崎商人館</p>  <p>川の駅</p>  | |

| | | |
|---------|---|--------|
| | 堤防道路整備に伴う、自治会主体の堤防沿いの花壇整備 | 三重県名張市 |
| キーワード | 個性ある町並み、自治会問題、河川改修に伴う堤防道路整備、WSによるまちのビジョンづくり、堤防道路沿道の建築ルール、堤防土手への花植え | |
| 地区の状況 | <p>名張市の新町地区は江戸時代に拓かれたまちであり、その頃からの商業を営む町屋が並ぶ個性ある町並みを形成していた。しかし、商業機能の低下や、敷地が独特の細長い形状をしていることなどから、仕舞屋や空き家が増え、建て替えによる景観の喪失が危惧された。また、自治会内部にも問題が持ち上がり、地縁組織の崩壊が心配された。</p> <p>一方、地区の南側を流れる一級河川である名張川は、自然豊かで、緩やかに弧を描き情緒ある風景を与えてくれるものの、幾度かの氾濫には頭を悩まされていた。</p> | |
| 活動の展開 | <p>内部問題を解決した自治会組織は、地縁法人化に合わせて集議所を建設し、民主的なしくみと委員会制を導入することで、ハードとソフトの整備に取り組めるようになった。</p> <p>名張川については、最初に建設省（当時）による川に面した敷地より高い堤防を築造する河川改修計画が提示されたが、堤防によって自然豊かな河川へのアクセスが分断されることや堤防の上に整備される管理用道路では一般車両は通行できないことが問題であった。新町地区自治会では「河川改修委員会」を中心に、町の利益となる護岸整備を検討し、住民が利用可能な市道として6mの堤防道路整備が決定した。しかし、それだけでは住民の利益となる豊かな空間は形成されないため、住民が望む町の将来ビジョンをつくり、それを踏まえた上で、平成10年には堤防道路への要望を取りまとめるワークショップを開催した。その成果（街灯の設置、土手の花壇整備など）を住民の総意として行政に伝え、建設省、県、市によって住民の要求が段階的に実現された。</p> | |
| 活動による効果 | <p>平成12年には花壇が整備され、平成13年に堤防道路が完成した。堤防道路建設に際しては、31戸の私有地の提供が必要であったが、住民の総意として取りまとめた要望であったため、面積の大きかった6戸に対しては有償、残り25戸に対しては無償での私有地提供をうけることができた。</p> <p>土手の花壇は自治会の組ごとに区分し、花の育て方の講習会や花植えイベント、日常の水やりなどを行い、隣と切磋琢磨し合って美しさを競っている。</p> <p>このように住民自らが考え、お互いに知恵や労力を出し合って整備することで、公共空間を愛着のある生活環境の一部に取り入れている。</p> | |
| 写真 | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>古い町屋が残る新町の町並み</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>名張川と河川敷</p> </div> </div> | |



| | | |
|--|--|--------|
| | 元気な高齢者が運営する街なかの居場所「喫茶カウンター付き宅老所『じい&ばあ』」 | 愛知県高浜市 |
| キーワード | 高齢化、空き店舗、介護予防、宅老所、ボランティアによる運営、多世代の交流（喫茶カウンター） 元気高齢者の生きがい・やりがい | |
| 地区の状況 | <p>三州瓦の産地として有名な高浜市は、福祉や分権型行政の先進自治体としても全国的に有名である。急激に進むことが予想される高齢化に対して限られた財源で効果的な介護予防を進めるため、平成 11 年よりボランティアが高齢者を一時的に預かり、一緒に話や食事をする宅老所を開設した。</p> <p>現在、市内で5箇所の宅老所が開設されており、その一つとして市街地の空き店舗を活用して開設されたものが「じい&ばあ」である。</p> | |
| 活動等の概要 | <p>利用概要 面積：107.5 m² 整備内容：和室（15畳）・喫茶コーナー・多目的トイレ</p> <p>利用概要 利用対象者：日常生活において見守り等の援助などが必要な65歳以上の方 利用日時：毎週水曜日・土曜日・日曜日の10：00～16：00（年末年始を除く）</p> <p>サービス概要 送迎、ボランティアによる見守り、手作りの昼食提供（実費200円） 喫茶（コーヒー、抹茶、紅茶各200円）</p> <p>運営概要 市が空き店舗を所有者から借り受け改装し開設した。運営は、高浜市社会福祉協議会に委託し、社協会員であるボランティアグループ（6団体+個人）の支援を得て行っている。喫茶コーナーは有志のボランティアが運営。</p> | |
| 活動による効果 | <p>街なかの空き店舗を高齢者や地域の人々が集う宅老所として有効活用を図り、新たな賑わいの創造と高齢者を始めとした人々の集いの場になっている。</p> <p>昼食づくりや喫茶コーナーの運営を行っているボランティア自身もその多くは中高年者であり、元気な限りは困っている高齢者の手助けを行っていかうというボランティアな想いをベースに自らの生きがい・やりがいにもつながっている。</p> <p>高齢化が進行していく中、街なかの温かなふれあい・支え合いのコミュニティの拠点として機能している。</p> <p>喫茶コーナーは、高齢者以外の人でも気軽に利用でき、地域コミュニティの場、多世代交流の場にもなっている。</p> | |
| <p>「じい&ばあ」の外観</p>  <p>喫茶コーナーの様子</p>  <p>手作り昼食会の様子</p>   | | |

| | | |
|--|--|-----------------|
| | 空き店舗を活用した0・1・2歳とおとなの広場 「遊モア」 | 名古屋市北区 柳原商店街 |
| キーワード | 空き店舗、子育て（親子の広場）、一時保育、商店街との協働 | |
| 地区の状況 | <p>柳原商店街は、商店街組合法に基づき昭和37年に、県下第1号、全国でも2番目の速さで商店街振興組合が設立された商店街で、歩道上に片流れ式アーケードがあり、現在、約100店舗が営業しているが、後継者不足や商店街離れなどにより、空き店舗が目立ってきている。柳原商店街に隣接する「名城・柳原地区」は15年1月に政府の第5次都市再生プロジェクトの「国有地の戦略的な都市拠点形成地区」になっている。</p> <p>この柳原商店街の片隅にあった空き店舗をNPO法人子育て支援のNPOまめっこが借りて子育て支援活動拠点として改装して平成15年7月にオープンしたのが「遊モア」である。</p> | |
| 活動等の概要 | <p>背景</p> <p>開設主体のまめっこは、10年程前から公共施設の一室を借りて就園前の幼児とその親を対象にした「親子教室」を開催していた。公共施設だと様々な利用制限があって使い勝手がよくないこと、「毎日あるといいのに」という利用者の声もことから常設の広場の開設を考えていた。そこに、空き店舗対策に苦慮していた柳原商店街と出会う機会があり、構想が一気に進展し、中小企業庁の進める「コミュニティ施設商店街活性化事業」の県内第1号適用を受ける形で開設に至った。</p> <p>施設概要</p> <p>面積：約60㎡（貸事務所）</p> <p>整備内容：幼児用トイレ、床暖房、離乳食やミルクを扱う授乳スペースなど</p> <p>開設時の改修費と一年分の家賃を「コミュニティ施設商店街活性化事業」として補助を受けているが、その後のランニングコストは自主事業費からまかなわなくてはならない。</p> <p>活動概要</p> <p>「遊モア」とは親も子供ももっと遊んで欲しい、そして思わず微笑むようなユーモアの意味を含んでいる。遊モアで行っている事業の柱は、「広場事業」と「一時保育」の2本柱。</p> <p>「広場事業」：乳幼児（0～3歳児）とその保護者や妊婦が対象で、月・火・水・木・金曜日の10：00～16：00と土曜日の10：00～12：00。紙や木等の自然素材のおもちゃなどで親子が気軽に遊ぶ機会を提供している。</p> <p>「一時保育」：6ヶ月から未就学児の子ども対象で、火・水・木曜日の9：00～17：00</p> | |
| 活動による効果 | <p>親子連れの買物客の増加や託児サービスがあることが商店街の利便性につながることで期待されることから、オープニングにあたっては、商店街関係者約70人が参加し、通りにたこ焼きやたい焼きの屋台を出して祝ってくれた。</p> <p>逆に、夏祭り親子連れの休憩室として施設を開放したり、フリーマーケットに参加したり遊モア側も商店街への参加協力を積極的に行っており、商店街のおかみさんの会との交流の機会が生まれるなど、新たなコミュニティの輪が拡がり地域の活性化に結びつきつつある。</p> <p>商店街を通るお年寄りが気軽に声を掛けてくれるなど地域の人たちの人間関係の風通しの良さにもつながっている。</p> | |
| <p>「遊モア」の外観 「親子広場」の様子 フリーマーケットにも参加</p> | | |
|  | | |

| | | |
|--|--|--------|
| | 人と人の縁が輪でつながる居場所づくりをめざして 「まちの縁側MOMO」 | 名古屋市東区 |
| キーワード | 空き家、出会いのサロン、縁側の居場所づくり、市民によるまち育て | |
| 活動の背景 | <p>大正末期から昭和初期に建てられた名古屋市東区撞木町にある撞木館(井元邸、約600坪の敷地で洋・和館のお屋敷)が好きな人が集まって「撞木館育くみ隊」を結成。当時、残り1年間で閉鎖が決まっていた撞木館を可能ならば残したいという想いで「つきいち縁側」を企画し、「園遊会」や「撞木館で寄席」、敷地内の蔵を活用した「蔵Bar」、子ども夏まつり企画「きもだめし」、縁側ののんびりとした場所でお年寄りが共に創ることを楽しむ「縁側サミット」などを開催した。こうした活動と併行して進めていた一宮市を舞台とした市民参加型公共施設設計活動の2つの流れが合流してNPO法人まちの縁側育くみ隊が結成された。</p> <p>そして、撞木館は閉鎖されてしまった後、育くみ隊の居場所は、東区平田町の交差点近くにある15年前から使われなくなった歯科医院の診療所・議公室・待合室を再利用する形で蘇らせた建物に移され、「まちの縁側MOMO」として開設した。</p> | |
| 活動等の概要 | <p>まちの縁側とは</p> <p>子どもやお年よりなどまちで生活する様々な人たちがふらっと立ち寄り、出会い、語り合える、かつてあった縁側のように温かく、柔らかなまちのたまり場・居場所のことであり、そうした人々が集まることによって育まれる、ゆったりとした“縁側の心”である。</p> <p>MOMOの活動</p> <p>まちの縁側MOMOは、NPOの活動拠点であると同時に、通りがかりの人が気軽に立ち寄れるようなサロンであり、ギャラリーでもある。これまで、「文化のみちスケッチ展」、「花の写真展」、カエルの手作り人形やキルトを展示した「ぜーんぶカエル展」、小枝のクラフトを展示した「小枝遊び展」、「草木染めニット展」を開催した。</p> <p>また、撞木館時代から開催していた「縁側サミット」も月1回の頻度で開催しており、色々な世代の女性たちの創作・交流の場となっている。</p> | |
| 活動による効果 | <p>最近では、地域の小学校の子どもたちによる絵画展「わたしたちの町」を開催しており、地元の人たちが集まる居場所としてパワーアップしつつある。</p> <p>多くの人々がMOMOに気軽に立ち寄り、まちの縁側の良さ触れることをきっかけとして、まちのあちらこちらにまちの縁側空間や縁側の心が広がることを期待しつつ活動を継続している。</p> <p>育くみ隊としては、一宮市の市民参加型公共施設計画や大曾根中学校のまち育て総合的学習のほか、「文化のみち事業」、貞奴邸運営企画など地元東区をフィールドとしたまちづくりの実践活動にも深く関わっており、内発力による市民主体のまち育てが広がっている。</p> | |
| <p>「まちの縁側MOMO」の外観</p> <p>「ぜーんぶカエル展」の様子</p> <p>「手作り昼食会」の様子</p> | | |
|  | | |
| <p>「MOMOのロゴ」</p>  | | |

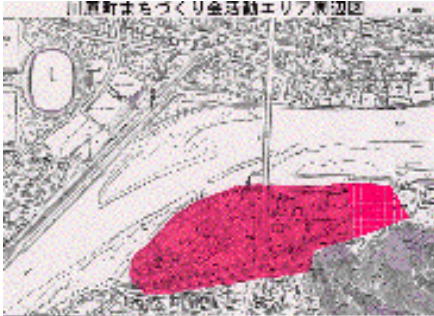

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 学生パワーでまちの活性化「名古屋学院大学まちづくりNPO人コミュ倶楽部」と「マイルポスト」 | 瀬戸市銀座通商店街 | |
| キーワード | 学生と大学、商店街、賑わい、まちづくり、協働、コミュニティビジネス | | |
| 地区の概況と活動の背景 | <p>尾張瀬戸駅の近くにある銀座通商店街は、かつては活況を呈していたが、現在は店舗数 66 件、空き店舗率が 18%となっている。こうした中、1998 年に、今までは旦那に商店街のことをまかせてきたおかみさん 30 名程で女性部「銀座レディース」を立ち上げ、バザーや縁日を手がけたところ好評で、ポジティブな空気が広がった。こうしたイベントに名古屋学院大学の学生が参加し、商店街でまちなか学園祭をおこなったことから、まちづくりに関心を持った学生達との交流が始まり、その後も駅ビルワーキンググループなどで顔を合わせたり、お互いに行き交うことで、信頼関係を築いてきました。</p> <p>同じ時期、万博を契機にして商店街の活性化をしようという気運が高まり、商店街内の人間関係や行政との協働関係を再構築していこうという動きが起き、行政からも空き店舗対策事業の提案が出され、こうした動きと併行して学生の同好会と教員の協働組織である「名古屋学院大学まちづくりNPO人コミュ倶楽部」が結成され空き店舗を活用したまちづくりが本格的に始動した。</p> | | |
| 活動等の概要 | <p>まずは、「人コミュ倶楽部」の事務所を開設。その後、瀬戸商工会議所が認定する「瀬戸みやげ奨励品」等を扱う物販店にも取り組むようになり、インターネットを活用した販路拡大を図るなど新しいコミュニティビジネスとして注目された。</p> <p>その後、愛知県商店街インターシップ事業の補助金を受け、平成 14 年 9 月に学生有志の経営によりカフェ&雑貨店「マイルポスト」を常設オープンさせた。来客数は 1 日あたり 30～50 名程度あり、1 年間の売上は 800 万円を超える水準に達した。商店街イベント時にはミニ FM 放送の運営、瀬戸市教育委員会主催のパソコン講座の受講後のフォローアップサービス、自閉症の中学生の作品展の開催など多機能性のある店づくり・まちづくりを展開している。</p> <p>また、「まちづくりワークキャンプ」と称して商店街で 1 週間寝泊りしながらまちづくりを行う活動や銀座通り商店街周辺のギャラリーを紹介した「せとギャラリーマップ」の作成、瀬戸みやげ奨励品制度で知り合った企業とオリジナル商品（陶製携帯アクセサリー）を開発し、ネット販売するなど学生ならではのコミュニティビジネスも展開している。</p> | | |
| 活動による効果 | <p>学生ならではのチャレンジ精神やアイデアに触発される形で商店街の人々も活気付き、各店舗が魅力ある商品を開発しそれを商店街が審査し認定することによって特色ある店づくり、魅力ある商店街づくりを行う「一店逸品運動」を平成 15 年度から展開するようになっている。</p> <p>「マイルポスト」を会場に名古屋学院大学経済学部政策学科「まちづくり研究入門」公開授業も行われるようになり、学生と地域住民の共同のまちづくり学習の場となっている。</p> <p>学生と大学、商店街、商工会議所、行政の協働によるまちづくりの幅が広がり、まちの賑わい再生に徐々に結びつきつつある。</p> | | |
| 瀬戸物まつりの賑わいとマイルポスト | | 銀座通商店街空き店舗シャッターイベント | |
|  | | <p>公開授業の様子</p>  |  |



| | | |
|-----------------|---|--------|
| | TMOによる重要文化財のカフェとしての再生 | 愛知県半田市 |
| キーワード | TMO、重要文化財、保存・活用、手づくりの再生、人の和、地域の拠点 | |
| 重要文化財の保存・活用 | <p>半田の中心市街地には、中埜半六という人の別荘であった「旧中埜家住宅」があり、昭和51年に重要文化財に指定されたイギリス風木造建造物がある。昭和63年までは家政学校として使われていたが、それ以降は放置されていたため、建物の損傷がひどくなっていた。</p> <p>建物のある商店街もまちのシンボルとなる素敵な洋館を何とかしたいという声が上がったこともあり、何とかこの建物を有効に活用して、まちを活性化していきたいということから平成8年に研究会をスタートさせた。</p> | |
| TMO半田による手づくりの再生 | <p>半田市では、平成11年3月に中心市街地活性化基本計画を提出、その年の11月にTMO組織、(株)タウンマネージメント半田を設立。設立当初は商業者を対象にパソコン教室などをしていたが、平成13年度に何かしようということ浮上したのが旧中埜家住宅の活用であった。</p> <p>建物の所有者である財団法人と賃貸借契約を結び、イギリス様式のカフェにすることに決め、再生に取り掛かった。まず、周囲の植木の剪定や庭の手入れを商店街のメンバーや農業高校の先生・学生にも協力してもらって行った。建物も文化庁の許される範囲で、かつ自分たちでできる範囲の補修を行い、すべて手づくりの再生を実現した。</p> <p>また、カフェとして営業できるように、紅茶や洋菓子について研究し、現在は紅茶専門館として地元の人にも遠方から訪れる人にも人気のある店として親しまれている。</p> | |
| 活動による効果 | <p>商店街の人々や農業高校の学生・先生、庭の小道づくりのためにブロックを提供した会社など建物再生の活動を通じて得た様々な人のネットワークは大きな財産である。館内には広い空間があり、文化祭やダンスパーティ、展覧会や講習会などが開かれるようになった。さらに、中埜半六邸(本邸)も再生しようということで、‘半六倶楽部’が立ち上がり、新たな活動が進められている。</p> <p>このように建物の再生を通して、人の和が形成され、生まれ変わった建物が街なかの生活・文化活動の拠点になっている。</p> | |
| 写真 | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>手作りによる庭の再生</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>店内の様子</p>  </div> </div> | |

| | | |
|-----------------|--|--|
| | 半田山車祭りにおけるコミュニティのしくみと新たな街なかの資源を活用するネットワークの形成の動き | 愛知県半田市 |
| | 赤煉瓦倶楽部・半田 事務局次長・企画部会長 永田 創一氏 | |
| キーワード | 半田山車祭り、山車のための組織、同年会、マンション住民の増加、赤レンガ倶楽部・半六倶楽部・紺屋海道倶楽部 | |
| 山車祭りについて | <p>約 30 万人の人出でにぎわう半田の山車祭りは、5年に一度、市内の山車が一同に会する。もともとは、各地区（成岩、半田、亀崎、乙川）にある8つの神社単位で行われていた神事の後に行われるお祭りであり、200年以上も歴史がある。現在も毎年3月下旬から5月初旬にかけて市内各地で行われている。</p> <p>半田山車祭りはJCが提案し、全31台の山車を集める大々的なイベントとして始められ、第2回からは市が運営している。</p> | |
| 山車とコミュニティ | <p>山車や祭りに対する考え方やしくみは地区によって異なる。成岩地区（農村部）では豊作祈願的なものであり、半田地区（街なか）では楽しむイベント的な要素が強く、地域の組（クミ）組織で山車を引く。それらに対して乙川地区、亀崎地区（港町）では、地域の組組織とは別に経済力と人格に優れた人が祭りを取り仕切る、車元制度というものがある。</p> <p>どの地区でも、小さい頃から囃子や小付けなど祭りに関わるのが当たり前になっており、そのまま大人になって山車祭りに関わる。24歳、42歳、60歳の厄年では祭りの際の役割が決まっており、人生の節目を迎えることがひとつのしきたりになっている。また、祭りの運営を通じてタテ社会に身をおくことで、社会性と地域の人脈が自然と備わり、代々暮らしてきた親や祖先に恥をかかすわけにはいかないという感覚が養われる。また、毎年祭りに参加したいということもあり、名古屋などに働きに行く人も地域に住み続ける傾向がみられる。</p> <p>一方、半田では、中学校時の同級生で構成する‘同年会’というしくみがあり、自分の親の葬儀は同年会が取り仕切ることが慣例となっている。この同年会が地域の中でのヨコのつながりであり、タテ・ヨコ両方のつながりが存在する。</p> <p>このように、祭り社会や同年会に身をおくことが、自治のしくみを学び、地域への愛着を高める要因になっている。</p> | |
| 新たなネットワークづくりの動き | <p>祭りは地元の者には、大きなアイデンティティとなりうるが、他地域の者は参加できない排他的な側面もある。</p> <p>しかし、これまで戸建志向が強かった半田においても、最近では半田駅前にマンションが建ち並び始め、今後、地元住民の比率がかなり下がっていくことが予想される。そのなかで、昔から地域で自治活動をしてきた人が、これまで守ってきた文化を維持したいときには、新しいエネルギーを入れる受け皿づくりが重要である。</p> <p>マンション住民が、単にベッタウンとして住むのではなく、半田の街なかに住むひとつの付加価値を与えるのに、文化財的な建物を紹介したり、様々なイベントを催したりする中で、行動するきっかけを与えることができる。それは結果として、街なかの文化性を維持し、居住環境の向上につながる。</p> <p>建物の再生による街なかの資源活用などがきっかけとなりやすく、半田には赤煉瓦倶楽部半田・半六倶楽部・紺屋海道クラブなど入りやすいテーマ型活動がある。それぞれが点で活動していたが、区画整理によって街なかのあり方を面的に考え、歴史的な財産を大切にしていこうということでネットワーク化するきっかけになった。</p> | |
| 写真 | <p>多くの人でにぎわう山車祭り</p>  | <p>赤レンガの旧カプトビール工場</p>  |


| | 旧街道の賑わいづくり 「中馬のおひなさん、塩の道おたから展」 | 愛知県足助町 |
|---------|--|--------|
| キーワード | 旧街道、新たなイベント、賑わいづくり、生活融合型観光、地元の高齢者に生きがい | |
| 活動等の概要 | <p>足助町では、これからの観光振興を背負って立つ青年グループである「A T 21 倶楽部」が中心になり、閑散期である冬季に来訪者を増やし中馬街道の面影を残す古い町並みの活性化と賑わいを創出する仕掛けとして、商店や各家々にあるお雛様を飾る「中馬のおひなさん」を平成 11 年から始めている。</p> <p>「中馬のおひなさん」の成功を期に、平成 13 年からは、9 月の閑散期に賑わいを創出するため、「塩の道おたから展」を実施している。これは、各家に眠っているお宝を「中馬のおひなさん」と同じ要領でまちなかに飾って来訪者に観て楽しんでもらおうという企画である。</p> <p>さらに、平成 14 年の夏には、江戸時代から使われた行灯のような照明道具“たんころりん”を、日没後に家々の軒先に灯すイベントも始めている。</p> | |
| 活動による効果 | <p>平成 11 年に約 3,000 人であった入り込み客数は、マスコミ戦略や口コミが功を奏して、4 年目の平成 14 年には約 5 万人を集客するに至っている。</p> <p>「A T 21 倶楽部」の仕掛けたこの活動に対して地元住民は当初は懐疑的であったが、初年度目の“小さな成功体験”がバネになって、翌年は、商工会婦人部も立ち上がり、町並みを彩る「もち花」づくりに率先的に協力するようになった。また、おひなさんの展示箇所は 60 軒以上になり、おひなさんの説明役を買って出たり、来訪者にお茶やひなあられを振る舞ったりする“もてなしの気持ち”が参加者に芽生えるようになった。そして、人出も 1 万人以上を記録した。</p> <p>今では、話題が話題を呼んで、期間中に 7.5 万人以上もの観光客が訪れるほどに成長し、おひなさんの展示箇所も 120 軒以上にのぼっている。</p> <p>“中馬のおひなさん”で一番喜んでいるのは、中心街のおばあちゃんたちであるという。何十年も蔵の中にしまわれたままの思い出いっぱいのおひなさまを、このイベントをきっかけに再び日の目に当てることができる。しかも、それを観て喜んでくれる人が沢山いる。だから、おばあちゃんたちも俄然元気になる。このイベントはまさに、住民が自らの意志で参加し、主役になって盛り上げる手作りイベントといえる。</p> | |



| | | |
|----------|--|--------|
| | <p>散策と住むための街づくりを目指す 「川原町まちづくり会」</p> | 岐阜県岐阜市 |
| キーワード | 都市景観、歴史的街並み、まちづくり協定 | |
| 会発足の契機 | <p>川原町（岐阜市湊町、玉井町、元浜町）は、江戸時代に長良川の舟運の重要な湊として発展した。また、戦災時の焼け残った地域の一部であり、古い町並みが残っていた。また、岐阜の名勝、金華山の麓、長良川に面するまちであり、旅館や商店、飲食店、手工業が集積している。県で長良川金華山の周辺一帯を岐阜の顔として散策空間として再生すべく、関係者による「長良川プロムナード会議」を開催した際、その委員として参加していた地元の旅館の伊藤さん、商店主の玉井さんを中心に75名が、自分たちでできることをやろうと会を結成した。</p> | |
| 会の動き | <p>平成13年9月に市の都市景観条例に基づく都市景観形成市民団体として認定を受け、活動を開始。最初に、住民意向調査を実施したが、住民の不満が高い項目として「暗い」「水害の不安」「交通事故の危険」があげられた。そこで、地元でできることとして各戸の軒先にさまざまな明かりをともし「明かりのオブジェ・フェスティバル」を開催した。その中で、来訪者からもっとも好評だった「明かり」であった桑原家の門灯を各戸に設置すべく平成14～15年度にかけて整備した。</p> <p>平成14年度は、地区内に2件のマンションの計画が持ち上がり、高い建物が建つことへの反対運動が起こり、事業者との交渉によって34mに高さを抑えることで合意ができた。また、古い建物を利用したコンサートの開催（平成15年）昔から行われた柱につける手作り門松づくり（平成14、15年）などを行った。</p> <p>平成15年度に、こうした高い建物の規制をするために高度地区の指定を行うとともに、行政と協働で街並み景観を整えるための協定の検討を行っている。また、平成16年2月には岐阜市が中心道路をゆっくり走らせるための社会実験を実施。</p> | |
| 目的と効果、課題 | <p>観光客の増加を目的としてではなく、スローライフな生活空間としての再生を行うことが目的</p> <p>結果として、散策を楽しめる場所となり、来街者が古い街並みを楽しめれば地元の誇りとなる。さらに、市としては定住者の増加を期待できる。</p> | |
| 写真 |   | |

| | | |
|--------|--|----------|
| | 旧街道の賑わいを仕掛ける「中山道若衆会」 | 岐阜県美濃加茂市 |
| キーワード | 街並み、ネットワーク | |
| 会発足の契機 | <p>昭和 56 年（1982 年）の夏頃、美濃加茂市の商工会青年部の中山道沿線の部員達が居酒屋でノミネーション（酒盛り）を実施している時、中山道（太田商店街）でのイベントが少なく、商店の廃業が進んできて寂しくなってきたということが出され、何とか賑わいを復活しようということで、昭和 57 年に若者 18 名で会を結成した。</p> | |
| 会の動き | <p>イベントの開催を中心に活動を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 58 年 日本一長い綱引き大会 ・昭和 60 年 中山道太田宿筋に木灯籠の設置（約 70 基）、中山道グッズ（Ｔシャツ、ご当地ソング、通行手形等）の開発、 第 1 回中山道まつり（皇女和宮の江戸降下に中山道が利用された史実をもとに姫行列の演出）開催。この年から毎年 6 月に開催され、平成 6 年からは青年会議所、商工会議所・青年部が協力して美濃加茂青年のつどい協議会を結成し、「第 1 回おん祭 MINOKAMO」と名称を改め、さらに現在はおん祭美濃加茂実行委員会が主催し、大規模に開催している。 ・昭和 61 年 第 1 回中山道 69 次大物産展開催 ・昭和 62 年 中山道の起点である日本橋から終点である京都三条大橋までの宿場町に呼びかけ、「明日のわが町をみつめ...子供達に夢を！未来に向かって新しき中山道」をテーマに第 1 回中山道 69 次宿場会議を開催。以降、各宿場町の持ち回りで毎回開催されている。 ・平成 2 年 地区の農業者や高齢者、商店街が協働して「中山道宿の市」を開催。その後、老人クラブと協力して「中山道の楽市」として毎月第 4 日曜日に開催している。また、空き家を借りて地域のお年寄りの憩いの場である「中山道ふれあい風土舎」（駄菓子屋フード経営）を設立。 ・平成 10 年 太田宿に桜を植樹、平成 11 年に太田宿ウォーク開催 ・平成 14 年 鳴子踊り in 太田宿（姫街道 400 年祭）開催。以降、毎年開催。 | |
| 会の評価 | <p>中山道若衆会の地域づくり活動は、商業者から兼業農家、お年寄りまで巻き込む地域一体型の運動で、地域おこし意識の高揚の起爆剤となり、全国中山道の沿線地域のまちづくりへの情報発信を行うなど、先進性がある。しかし、後継者が不足し、また街並み景観などのハード面での整備が立ち後れ、まちの魅力に欠ける面がある。また、中山道 69 次歴史資料館の実現に取り組む。</p> | |
| 写真 |   | |

| | | |
|--------|---|---------|
| | ユニークなネーミングでまちおこしに挑む 「富士宮やきそば学会」 | 静岡県富士宮市 |
| キーワード | まちおこし、富士山信仰、やきそば、中心市街地活性化 | |
| 会発足の契機 | <p>平成 11 年度に富士宮市が中心市街地活性化計画の策定時にワークショップ開催した際、集まった市民の中の有志が、ワークショップ終了後に集まり「歩いて楽しいまち、路地裏の活性化」について再度検討することとなった。</p> <p>その際、路地裏にはやきそば店が多いことに気づき、調べてみると人口当たりの店舗数が県内で静岡市と比較して桁外れに多いこと、麺の調理法の独自性、料理事態の独自性が分かったため、これぞ路地裏文化であると確信をもった。</p> <p>こうした富士宮のやきそば店を調査研究するために、平成 12 年 11 月に「富士宮やきそば学会」を立ち上げ、会員をやきそばG麺と名乗り活動を開始した。</p> | |
| 会の活動 | <p>学会は、当初 13 名でスタートしたが、市内のやきそば店を調査しデータ集積を行い、平成 13 年 1 月には 100 店以上の店舗のデータベースを作成した。</p> <p>学会発足当初から、ネーミングのユニークさからたびたびマスコミで取り上げられるようになり、全国に情報発信する存在となってきた。</p> <p>平成 13 年 4 月には、やきそばマップと富士宮のやきそばが食べられる店の目印としてのぼり 100 本をつくり配布した。その後も、やきそばのまちである横手市や太田市などとの交流（やきそば対決や三者麺談）同じ麺で小倉焼うどん（天下分け麺の戦い）との食べ比べなどを企画し話題を提供し続けている。</p> <p>マスコミに取り上げられるたびに富士宮のやきそばの知名度が高まり、やきそば店には多くの人が押し寄せ、活性化に大いに役立っている。市内に 3 軒ある製麺所はそれまでの 1.5 倍の生産量となっているし、市内のやきそば店の売り上げも伸ばしている。</p> <p>平成 13 年 10 月には、「富士宮やきそばアカデミー」を開校し、市民に富士宮のやきそばの正しい料理の仕方や歴史などを学ぶ場を提供している。</p> <p>このような活動は、道路公団でパンフレットの作成を行い西富士料金所で配布を始め、ビール会社の地域限定のポスターの作成、市内の各種イベントには必ずやきそばが登場するなど、積極的に協力するようになってきた。さらに、小学校の総合学習の時間にやきそばを取り上げている。</p> | |
| 写真 |  <p>資料：やきそば学会 http://www5.ocn.ne.jp/~saromiya/yakisoba/index2.html</p> | |

| | | |
|--------|---|--------|
| | 岐阜の市街電車の保存にかける「岐阜未来研究団」 | 岐阜県岐阜市 |
| キーワード | 路面電車 | |
| 会発足の契機 | <p>会の代表の堀達哉氏（35歳、千葉県在住）は千葉大学の大学院生で都市環境デザイナーであるが、路面電車のデザインに興味があり、人から岐阜の電車が狭くてデザインの評判が悪いと聞き、理想的なデザインを描き岐阜市で展覧会を開催した。展覧会に訪れた人に呼びかけ、1997年にこの会を結成した。</p> | |
| 活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・みらい楽講 2ヶ月に1度、岐阜市神田町の円徳寺において、市民を対象にまちづくりと路面電車について考える研究会を開催している。 ・まちづくりデザイン小展覧会 秋に、岐阜市神田町の円徳寺において、まちづくり、岐阜、路面電車の3つに関わる市民提案の発表会をデザイン展覧会形式で開催している。 <ul style="list-style-type: none"> ‘00年 テーマ「街の楽しみにアクセスするトラム」 ‘01年 テーマ「路面電車を知る」 ‘02年 テーマ「道づくりと道づかい」 ・市街電車を使ったイベントの開催 少しでも市民の市街電車に対する関心を持ってもらうために、電車を利用したイベントを開催している。 ・利き酒列車、子供だけ街体験電車の運行 | |
| 写真 |  | |